

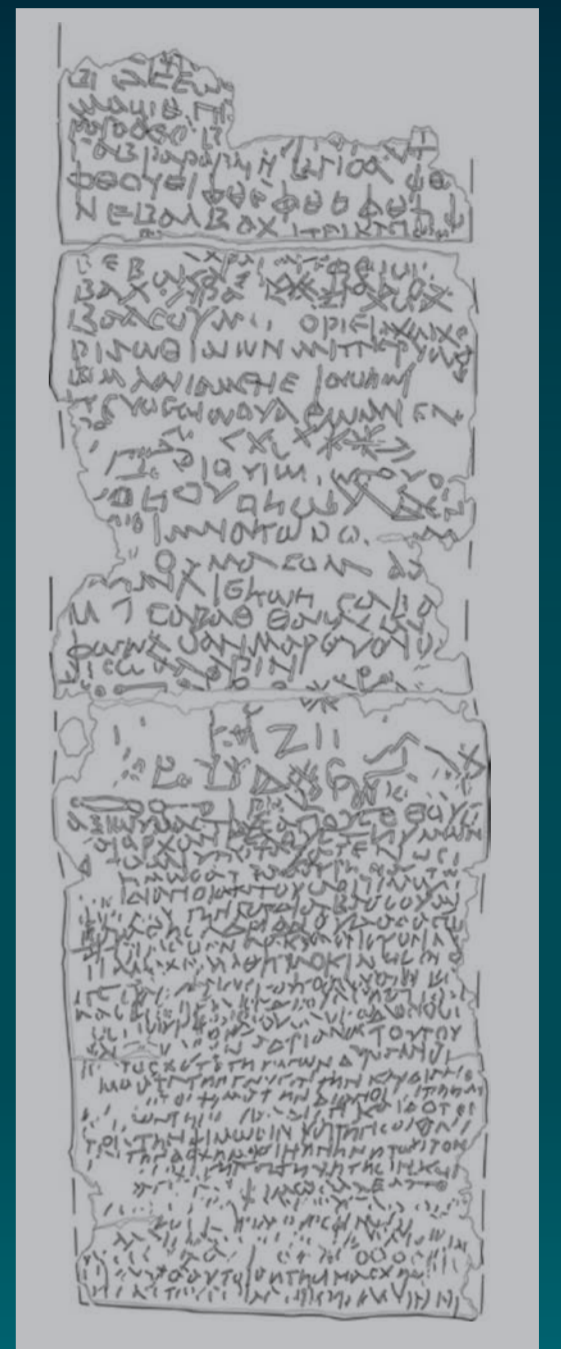
# 古代ローマにおける呪詛・呪文

## —裏の精神史—

古代ローマ世界はしばしば、ギリシア哲学の伝統を受け継いだ理性的な思考を特徴とする文明が築かれていたとイメージされます。

けれどもローマ世界の住民たちは、身分の貴賤にかかわらず、庶民であろうと教養人であろうと、誰かに呪詛されることを恐れ、また自分の人生のあらゆる場面で呪文を用いようとする人々でした。裏の精神史ともいべき呪詛・呪文に対する姿勢を知ること、真のローマ人を知ることができると言えます。

本講演会では、こうしたローマ時代の呪詛・呪文に関する研究者たちが、呪詛・呪文の実践や背景にある思想、社会の姿に光を当てていきます。呪文の力に満ち溢れた世界で、ローマ人はどんな日常を送っていたのでしょうか。



写真提供：泉 拓良 京都大学大学院 総合生存学館（特定教授）

# 2017年7月8日(土)

**申込不要** 直接会場にお越しください  
どなたでも受講できます

## 13:30~17:00 土樋キャンパス8号館5階 押川記念ホール

講師  
講演内容

### 「呪詛の系譜 -フェニキアの人々と呪い-」

**奥山 広規** (おくやま ひろき) 岡山理科大学・広島商船高専・非常勤講師

### 「ローマ人と呪い

#### —呪詛板によって呪縛されることを恐れない人はいない—

**志内 一興** (しうち かずおき) 中央大学他兼任講師

### 「祈りと呪詛の間で

#### —キリスト教ローマ時代と信徒たちの呪い—

**大谷 哲** (おおたに さとし) 東北大学大学院文学研究科・専門研究員